1. 評価結果概要表

平成19年 9月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	2070300591		
法人名	社会福祉法人敬老園		
事業所名	グループホームぼうやま敬老園		
所在地	上田市中央5-6-23 (電話) 0268-25-1165		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年12月18日

【情報提供票より】(19年 9月 14日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人	非常勤0人 常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~32,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 14日 現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84.6 歳	最低 76 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳澤病院、小泉クリニック、佐藤歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野県上田市の新幹線も停車する上田駅より、徒歩15分の街の中に位置し、昔の地名から「ぼうやま」と名付けられたホームである。建物は築30年ぐらいの民家改修型で以前は地域に親しまれた診療所の跡でもあるため、入居者も地元の方が殆どということから、診療所がかかりつけ医としていた方もおり、親しみを感じられているようである。ホームから100メートル位に、うえだ敬老園があるため、出向いてはレクリエーションと一緒に楽しんだり、重度になったときに特浴槽を借りて入浴させて頂いたり、交流や連携が取れる事業所が近くにあるのは、大変心強いことである。ホームの理念として掲げている「明るく、楽しく、元氣よく。その人らしく輝いて。やさしい心で。」は、職員・利用者からも充分窺えた。また、現在終末期の方もおり、法人の訪問看護と契約を結び、家族の希望により職員一丸となりケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、法人の理念意外に、ホーム独自の理念を掲げ、職員が取り組まれることと、安全管理面で、洗剤などの危険物の保管についても、鍵を掛けるなど改善されており、課題についての取り組みが窺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎月全体会議で問題課題の分析し、常に改善に向け検討し、取り組みが行われているが、更にサービスの質の向上のために機会を設け、文章化したもので自己評価を職員が個々行ってみることが望ましい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開き、ホームの状況報告を行うと共に、利用者・家族からの要望、地域との連携など活発な意見交換が行われている。9月には、焼き肉大会を開き、和やかな良い交流会となった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは、月に1回は必ず連絡を取り、意見や要望を聞いている。苦情窓口、意見箱の設置など意見・苦情は言える体制ではあるが、行事などに家族に参加を求め、家族会など家族同士の交流の場をつくり、更にホームとのコミュニケーションが取れることが望ましい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアなどの来訪もあるが、地区の行事などに声を掛けて頂けるような働きかけも、運営推進会議でする必要と思われる。防災訓練には、地域の方が5人も協力して頂いたが、住宅地のため地域全体の理解と協力が得られるよう、日頃からの交流を密にすることが求められる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とホーム独自の理念を玄関入り口に掲げられており、入居者家族にも理解を得ている	○	ホーム独自の理念も掲げられ、職員全員が「その人らしく・輝いて・やさしい心で」楽しんで生活していただきたい。と言う気持ちは十分に伝わったが、住み慣れた地域での安心した生活の継続を支援することも加えた理念を掲げられることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、法人の理念・ホーム独自の理念をよく理解し、共有化を図り、日々実践に向けたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	サマーチャレンジなどで地元の中学生・小学生の訪問、高校福祉科の実習生の受け入れされたり、ホームの防災訓練に自治会から5名の方が参加して下さったり、ホームが孤立することなく交流されていることが窺えた。	○	自治会の行事などにも参加されたり、ホームが住宅密集地にあるため災害時には地域全体の理解・協力が得られるよう、日頃からの交流を更にされることが望ましい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月10日に夜勤者以外全員による、報告会を開き評価あるいは確認など行い、具体的なケアの改善に取り組んでいる。	○	職員も個々に自己評価を行うことで、よりきめ細かな改善課題が確認できることから、自己評価の実施が求められる。

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、ホームの状況報告など行い、活発な意見交換が行われている。9月の会議には焼き肉大会を開き和気藹々行われ、より一層親睦も深まったことが窺えた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として市とは、密に連携を取っている。運営推進会議でも活発に意見交換され、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に声掛けをしたり、遠方で来られない方には電話にて、日頃の様子を伝えている。請求書の郵送時に様子を書いて同封もしている。年4回発行される写真入りの広報でも、暮らしぶりを伝えている。金銭はお預かりはしていない。個人的出費があった場合には、立て替え払いとし、ホームの請求書と一緒に請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口および地域の第三者委員は重要事項説明書に明示されており、入居契約時に入居者・家族に説明はされている。玄関に意見箱が用意されていた。面会時に声掛けをするなど気軽に相談出来るような、雰囲気づくりに心がけている。	○	行事などにも、家族の参加を呼びかけ、家族同士の意見交換の場を設け、ホームとの更なるコミュニケーションが取れることが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が不隠にならないために、異動はなるべく抑えている。また、異動・離職の際は研修期間を設け、サービスの安定化に努めている。	○	入居者の落ち着いた暮らしを維持するために、ホームの問題点を探り、職員の定着が求められる。

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修は、段階別実施されている。また、外部研修も出来る限り参加できるよう勤務の調節なども行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の管理者が、月に1回グループホームの相互評価事業に参加し、評価結果を4ヶ月に1回報告会を開き、それぞれのホームのサービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者・家族の見学は積極的に受けている。入居時には、利用者の状態にもよるが、家族と相談しながら使い慣れた生活用品が持ち込まれ、落ち着いた居室づくりがされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの風習や料理、方言など入居者に教えて頂くなどすることにより、異動などで交代があってもすぐにとけ込め、支え合う関係づくりがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を聴きながら支援している。意思疎通が困難な方には、家族などから情報を得て検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心とし、本人・家族の意見を聞いたり、個々の担当職員に毎月モニタリング記入して頂き、月1回の職員会で検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月で見直しを行っている。また、状態の変化に応じて随時、訪問看護師・家族と相談しながら計画を作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の方の通院介助もされている。一般浴が困難な方には、法人のデイサービスセンターと連携し特浴槽を利用し入浴していただいたり、状況に応じて柔軟に対応している。		

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医とし、受診の付き添いは、基本的には家族にお願いしている。不可能な場合には、家族の同意を得て代行を行うようにしている。医療関係の情報は一人ひとりのファイルに保管されており、緊急時にも即情報提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、訪問看護と契約をしており、主治医・家族・訪問看護師・職員で話し合い、検討をしている。ターミナルケアについての同意書も作成されている。	○	ターミナルケアについての同意書も作成されているが、ターミナル指針に、もっと具体的にケアの出来る範囲を明示し、それに合った同意書を作成されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳・情報保護につて職員は理解しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応・言葉かけはされていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、その日の一人ひとりの体調や気候にもより、買い物・散歩・外出など希望に沿った支援がされている。		

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせて、刻み食・ミキサー食を用意され、職員は介助が必要な方の隣で食事を摂りながらさりげなく介助されていた。食事の準備・片付けは、個々の力量に合わせて職員と一緒にいることが窺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には週2回行っている。希望により3回の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居契約時に、本人・家族から生活歴の聞き取りをされ、日々の暮らしに経験を活かし発揮できるように支援している。また、力量に合わせて、洗濯たみ・食事の用意・食器ふき等、役割を持って過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や一人ひとりの体調に合わせて、お散歩などホームの中だけで過ごすことのないよう支援している。また、行事担当の職員が2ヶ月づつ行事や催しなど、利用者の希望を聴きながら計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。ホームは交差点角に立地しているため、入居者の状態により危険回避のため、玄関に施錠する場合は、家族の同意を得ている。		

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合訓練を年2回行っている。1回は地区の自治会の協力も得て避難訓練を行っている。今年も自治会から5名の協力が得られた。もう1回は、手順の確認を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分の摂取量は把握し、記録されており、調理も体調に合わせ、刻み食・ミキサー食にするなどの支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは決して広いとは言えないが、テーブルの向きなどの工夫により居心地よく過ごせるよう配慮されていた。玄関にも椅子が用意され、自由に過ごせる空間づくりが窺えた。トイレのドアも廊下が狭くならないように、アコーディオンカーテンにし工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はされていないが、一人ひとりの状態により相談させて頂くこともある。個々の使い慣れた机・テレビ・筆筒など自由に入る範囲で持ち込まれ、それぞれ居心地よく過ごせる工夫がされていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。